

担当教官 上岡一世

### 1. 授業の目的

- ・知的障害児教育がどのような過程を経て、現在の教育が確立したか、その変容過程を理解すると共に今後のあり方を展望する。
- ・知的障害児教育の教師が身につけなければならない指導法、学級経営法の基本について理解する。

### 2. 到達目標

- ①知的障害児教育の教育課程、教育目標の内容が理解できる。
- ②知的障害児教育の歴史を理解し、今後の展望を切り開く方向性を論述できる。
- ③知的障害児（含む自閉症）の効果的な指導法を体得できる

### 3. 授業の内容

- 第 1回 授業のガイダンス、目的  
第 2回 日本の知的障害児教育の現状  
第 3回 知的障害児教育の基本理念と目標  
第 4回 知的障害児教育の学習指導要領の変遷  
第 5回 〃  
第 6回 教育課程の編成と作成過程  
第 7回 授業時間割の編成と作成過程  
第 8回 指導法（日常生活の指導、遊びの指導）  
第 9回 〃  
第 9回 指導法（生活単元学習）  
第 10回 〃  
第 11回 指導法（作業学習）  
第 12回 〃  
第 13回 指導法（教科学習）  
第 14回 学級経営法  
第 15回 試験

### 4. 授業の進め方

この講義は、愛媛大学教育学部附属特別支援学校での教育実習を行う学生を対象としていたので、教育実習で成果を上げるこ

とができるよう知的障害教育に対する基本的理解と指導法、対応法の実際に力点を置いて授業を展開した。一方的な講義にならないよう、毎回、次週に講義する内容について自主学習（与えられた課題の情報収集）を位置づけ、それを発表させた後講義に入るようにし、より講義の理解度を高めるよう配慮した。

### 5. 授業評価

授業改善のための調査は無記名で、以下の7点について行った。結果は次の通りである。

#### ①授業への出席度

- ・すべて出席—21名
- ・1回欠席—8名
- ・2回欠席—5名

#### ②授業の予習、復習などの自主学習

- ・よくした—11名
- ・時々した—23名
- ・しなかった—0名

#### ③授業の理解度

- ・よく理解できた—9名
- ・理解できないことが少しあった—24
- ・理解できないことが多かった—1名

#### ④授業への参加意欲、受講姿勢

- ・高かった—26名
- ・どちらでもない—7名
- ・低かった—1名

#### ⑤授業の内容、レベル

- ・ちょうどよい—19名
- ・難しい—15名
- ・易しい—0名

#### ⑥この授業を受けて勉強になったこと（自由記述—抜粋）

- ・毎回課題が与えられ、次回までに調べ、考えることが求められたため、理解が促進した。
- ・教育課程の意味がよく分かった。
- ・指導、訓練よりも支援の必要性がよく分

かった。

- ・自分の生き方、教育の考え方を反省する機会になった。
- ・具体的支援方法、指導方法を学べたので今後実習に生かせる。
- ・課題、問題を解決する力が身についた。
- ・新しい知的障害の定義や就労のことなど知らないことばかりだったのですごく勉強になった
- ・生活単元学習と作業学習の内容の違いがよく分かった。
- ・暗記ではなく考えや理解を中心とする講義だったので、自分の考えを深めることができた。
- ・特に、自立のところはすごく勉強になった。これからはこのことを意識して実習に望みたい
- ・知的障害だけでなく、特別支援教育全体について基本的な考え方を深めることができた。
- ・特別支援教育と通常教育との違い、現在までの歴史的背景など新たな視点で考えることができた。
- ・すべてが勉強になった。
- ・障害についての正しい理解と専門性を深めることにとても役立った。
- ・特別支援教育のあるべき姿、方向性が理解できた
- ・共感や自立、自活など具体的にどうということか聞かれると答えることができず、普段耳にしていることばを曖昧にしか理解できていないことが分かり、勉強になった。

#### ⑦この授業で改善すべきこと

(自由記述一抜粋)

- ・資料が多すぎて要点がつかみにくい
- ・パワーポイントの内容が要点だけだったので復習の時が大変だった。
- ・課題として出された回答を授業の最後にわかりやすくまとめて欲しい。
- ・その日の講義内容のポイントを最後にもとめてもらえるとありがたい。
- ・もっと具体的な指導法が欲しい。

#### ⑧その他

- ・毎回調べ学習をしてから講義を聞いたので理解しやすかった。講義に緊張感が持てた。

・具体的な子どもの様子を話してくれたので理解が深まった。

・授業内容がかなりむずかしい内容だったがとても勉強になった。

・内容が少しむずかしくてよく分からなかった。専門性の高い授業だった。

・自分たちでテーマについて調べ発表するというのは新鮮だった。調べたつもりでも発表後の先生の質問には答えられず、自分が理解できていないことが分かり、講義でしっかり理解しようとする意欲が出た。

・視点の置き方で、考え方、とらえ方が違うことが分かった。さまざまな見方、考え方を学んでいく必要性を感じた。

#### 6. まとめ

・到達目標について

この講義では、毎回、次週の講義に関する課題を設定し、自主学習を位置づけたので、学生達も見通しを持って講義に臨むことができ、講義内容の理解はかなりできたと思われる。学生の評価を見ると当初の目標は達成できているように感じる。

・学生の受講姿勢

授業への参加意欲が高かった者が34名中26名(76%)とかなりたくさんいた。また、講義への出席もすべて出席の人が21名(62%)、1回欠席が8名(23%)で高かった。一方的な講義ではなく、課題設定や話し合い活動を取り入れたのが効果的であったと思われる。

・自主学習

予習、復習などの自主学習は、よくした、時々したを合わせると34名(100%)と高かった。これは課題を自分たちで解決し、発表する機会を多くしたことが効果的だったようである。自分で文献を調べたり、自主的にグループで話し合ったりできたことはよかったと思う。

・次年度への課題

受講生には、2回生が中心で、特に発達障害コース以外の学生は専門的なことを学んでいないため、はじめて聞く用語も多く、むずかしいと感じた者(15名-44%)が多かった。授業内容のレベルを下げないようにするためには自主学習の在り方をさらに検討する必要がある。